

2016医療薬学実習

傾聴演習

～患者に寄り添い、
患者と医療者のギャップを埋めるために～


東京理科大学 薬学部 後藤 恵子

本日の学習目標

- ・患者の話を傾聴し、共感的に受けとめる
- ・患者の不安の所在を明確にし、
それに即した説明をする
- ・患者の物語を聴く意味について、
自分なりの考えをまとめる

薬剤師の2つのきき方

	「聞く」	「聴く」
立ち位置	専門家として (専門家の解釈モデルから)	医療人として (患者の解釈モデルを)
目的	情報を収集する (安全な薬物療法の 実施のために)	分かろうとする 寄り添う (患者が不安や心配を抱えている場合)
焦点	事柄	気持ちや感情
ブロッキング	有り(評価・分析など)	無し(あるがままを受けとめる)



支援者は、相手をまず分かろうとしなければならない。理解される体験を通して、安心感を感じ、ようやく自分の問題に目を向けるようになる。

患者さんの多くは、一般的な説明ではなく、
私のための関わり、
私の状況を踏まえた専門知識の発揮を望んでいる。

そのために必要なのは、聞く・聴く力

なぜ、聴く力が必要なのか？

患者さんひとり一人背景が違い、病気や治療に対する
感じ方・捉え方が違う。

病気のことは、当事者である本人にしか分からない。

⇒問題解決の足掛かりとなる。

乳がんのホルモン療法に対して
皆さんは、どんなイメージを持っ
ていますか？

ホルモン療法を受けることになった
患者さんの思い、
どんな思いでしょうか？



認定NPO法人 健康と病いの語り ディベックス・ジャパン
がんや認知症の体験談を動画や音声でお届けしています



[「健康と病いの語り」
とは](#)



[ディベックス・
ジャパンについて](#)

[会員専用ページ](#)



健康と病いの語り

認知症の語り
dementia

乳がんの語り
breast cancer

前立腺がんの語り
prostate cancer

大腸がん検診の語り
bowel screening



お知らせ：[7月12日（日）公開フォーラム「患者・家族の語りから学ぼう」を開催します。（2015年6月16日）](#)

[お知らせ一覧](#)

[NPO法人 健康と病いの語り ディベックス・ジャパン](#) > [乳がんの語り](#)

「患者にしか語れない言葉」がある

乳がんの語り

乳がんを体験した20才代から70才代の
女性48名と男性1名の語り映像があります



乳がんは、女性に多く見られるがんですが、稀に男性も罹患することがあります。近年、我が国において罹患率・死亡率ともに増加傾向にあり、女性では40代後半から50代にかけての年齢が罹患のピークとされています。ここには、乳がんを体験した20代から70代の女性48名と男性1名に、インタビューした内容を掲載しています。各テーマのページを開くと、そのテーマについて語っている体験者たちの1-4分の短い「語り」の映像・音声・テキストを見ることができます。また、年代別のページから、個々の体験者の語りを見することもできます。それぞれのページに入るには、ピンクの枠で囲ってあるタイトルをクリックしてください。

治療開始前

診断時:49歳 右乳房温存術後、断端にがんが残っており、追加で乳房切除術、3年後に乳房再建術を受け、現在ホルモン療法を継続中。

ホルモン療法は、身体中に散らばった微少ながん細胞を抑えるための治療だと説明された

治療開始前

診断時:44歳 右乳がんと診断され、右乳房温存術、リンパ節郭清術、術後抗がん剤治療を受けた。これから放射線療法とホルモン療法を行う予定

抗がん剤のように短期間なら副作用も我慢できるが、日常生活に影響のある副作用が長期に続くようであれば、ホルモン療法をどうするか考えると思う

ホルモン療法を受けることで、絶対にがんにならない、再発しない、転移しないっていうふうに言えるのであれば、甘んじて受けるかもしれませんが、そうは言えないわけですよ。

そうは言えないのに、更年期障害に近いような症状が継続的に出てしまうっていうことも、まあ一つの可能性としてあるというふうに聞いてますし。人によっては、ひどい症状が出て、楽しい生活が送れないっていうふうになる人もいるとも、聞いているんですね。

もし、そういう状態になってしまった場合には、食事を中心にいろいろ変える療法ですとか、まあ漢方系の療法ですとか、そういうものを選択する可能性は十分あるなあというふうに思っています。

この後スライド15枚あります

- 実際に乳がんの患者さんの語りを、傾聴スキルを用いて視聴。その後模擬患者とのロールプレイを実施。